

科目名	音楽教育の方法	形態	講義	開講期	秋学期
担当教員	柴田 篤志	単位	2	年次	1

＝授業科目の目標＝

音楽教育に関して考察する際の方法論を身につけます。過去に論争となった音楽教育に関する出来事について知り、その対立する二つの立場のどちらかに賛成かを論理的に判断する事で、自らの音楽教育に関する価値観に気付くことができるようにします。自らの音楽教育に対する立場を十分自覚した上で、それを他者に理解してもらうにはどのような方法があるかを探索します。更に自らの意見を文章化して伝える技術の基礎を身につけます。

＝履修の条件と学習の方法＝

教科書代わりにプリントを配布します。授業終了時に次時について予告をしますので、予習を怠らないこと。筆記試験はありませんが、複数回のレポートが課されます。授業内で制限時間を設けて行います。レポートを書く授業がいつになるかは予告される場合と、されない場合があります。このレポートが成績判断の材料になります。出席回数より、このレポートを何本出せたかが成績評価に大きく影響します。本来レポートを書くべき授業に参加できなかった場合、後日同じテーマでレポートを遅れて出すことは認めますが、その際の成績評価(得点)は通常レポートの8割になります。

＝授業内容＝

- 1回 オリエンテーション、並びに次時資料配付
- 2回 「クラス合唱の効能」、並びにレポート(1) 課題提示
[本時においては書かず、宿題←この課題のみ]、次時資料配付
- 3回 「移動ド・固定ド論争」1. レポート対象部分のみ概説、レポート(2) [←制限時間30分ほど]
- 4回 「移動ド・固定ド論争」2. 第二回に配付した資料の残り部分概説、テーマのもつ二つ目の意味を開示
- 5回 「移動ド・固定ド論争」3. 論争沈静化のために寄稿された文章の詳説、並びにこのテーマの穏当な帰結点を示し、敢えてそれを採用しないで自らの立場を述べること、と申し渡す。次時はこのテーマの仕上げとしてのレポートとなることを予告。
- 6回 「移動ド・固定ド論争」4. レポート(3) [←制限時間60分以上]、終了したものには過去レポート、並びに次時資料を配付を配布。
- 7回 「風と川と子どもの歌論争」1. レポート対象部分のみ概説、音響資料一曲のみ聴取、レポート(4) [←制限時間30分ほど]
- 8回 「風と川と子どもの歌論争」2. 音響資料聴取、並びにその解説
- 9回 「風と川と子どもの歌論争」3. 齋藤喜博について詳説、配付資料追加
- 10回 「風と川と子どもの歌論争」4. このテーマの二つ目の意味を解説した上でレポート(5) [←制限時間60分以内]、終了したものには過去レポート・次時資料配付
- 11回 「音楽評価オール3事件」、資料概説、レポート(6) [←30分以内]、過去レポート配布、次時レポートについて課題詳説(論述内容を精査し、まとめておくことを宿題とする)
- 12回 レポート(7) [←50分ほど]、制限時間終了後、まとめの講義、評価と評定に関する資料配付
- 13回 「音楽教科無用論」1. 資料配付、黙読(速読を求める)、前半部分だけを通読した上でレポート(8) [←読むこととあわせて80分ほど]、制限時間終了後、この問題の裏テーマを開示、資料の続き部分を読み込むことを宿題とする
- 14回 「音楽教科無用論」2. レポート(9) [←授業開始から終了まで90分]
- 15回 まとめ講義、「音楽教育と体罰について」、資料配付

＝成績評価の方法と評価の基準＝

授業内で課されるレポート（予定では九本）が成績評価の材料となります。このレポートが五本以下の場合、単位は与えられません。宿題となる最初のレポート以外、同じテーマで必ず複数回レポートを書きます。初回のレポートと2回目のレポートでテーマに関する理解が深まることが講義の狙いです。まず、自分の意見をしっかり固めること。次に、その意見の正統であり、優位であることを論理的に伝えるための材料を、配付資料の中から探して、見つけて下さい。そうした試行錯誤が、文章から読み取れるレポートを高く評価します。なお、制限時間がありますので、途中で終わってしまうことの無いように心がけて下さい。レポート執筆開始前に制限時間は明示します。

＝テキスト（必携）＝

用いません。
ただし、レポートの材料・資料となるプリントは配布します。これを読み込んでおかないと制限時間内にレポートすることは非常に困難です。予習をお願いします。レポート題材によっては、事前にこの資料を配付しないことも予定していますが、その場合は「素早く読んで理解して書く」ことを求められていると判断して下さい。